

Voice 先輩移住者の声 1

交際中に膨らんだ将来のイメージ。
二人の夢を実現するための第一歩。



たたら まさとし
鑑 優駿さん・麻琴さん

お互いの実家がある関西から近い!

香川大学法学部で学び、帰郷して全国展開のフードサービス企業で働いていた優駿さん。大学時代の知人がさぬき市で就農したと聞いて、当時付き合っていた同じ職場の麻琴さんと遊びに来たのが2017年。その農園を何度か訪れるうちに、農業に魅力を感じ、さぬき市の土地柄にひかれて、「自分たちもこういう暮らしがしたい」と思うようになりました。

「田舎暮らしがしたい」「食に関する仕事がしたい」「材料から手がけたい」…。将来の理想を語ります。

合うちに、2人が結婚を意識し、移住を決めたのはごくナチュラルなこと。麻琴さんが車の免許を取得し、着々と準備は進み、そして両親に報告。入籍の1ヵ月後にさぬき市に住み始めました。

海と山に囲まれていて、自然が豊かなこと、程よい田舎であること、関西から2、3時間でアクセスできることなども、この地を選んだポイント。また、「移住者の先輩が多く、地域が違和感なく受け入れて、親切にしてくれるのがありがたい」と話します。

いつか、自家製小麦のパン屋さんを開きたい。

知人の作った有機野菜のおいしさに驚き、2人も有機農業の道へ。「有機農法で野菜を育てる農家はまだ少ない。難しいからこそチャレンジしたいし、逆にチャンスだと捉えています」と優駿さん。1年間の研修を経て、さぬき市に0.7haの農地を借り入れ、「たたらばん農園」をスタートさせました。

土づくりに時間をかけ、キャベツやソラマメ、そして「妻の好きなカボチャを育てたい」と優駿さん。「将来は小麦も栽培して、パン用の新窯を作つてパン屋さんをオープンさせたい。」とも話し、試作を始めているそう。麻琴さんも、「お店に

は、雑貨も置きたい。農業と子育てを両立したい」と夢を語ります。かわいらしい農園名には、そんな2人の思いが込められているのです。

認定新規就農者向けの補助や、移住者向けの家賃補助などを受けながら、仕事や生活を軌道に乗せようと奮闘中。つい最近、古民家を見つけたそうで近々引越し予定だそうです。



移住者 Data

【出身地】兵庫県(夫)、大阪府(妻)
【移住年】2019年
【職 業】農業 【家族構成】夫婦2人

1か月の支出目安	
家賃	50,000円 (うち2万円補助)
食費	30,000円
水道・光熱費	15,000円
通信費	8,000円
1か月あたり	約 150,000円



Voice 先輩移住者の声 2

広々マイホームが予算内!
家族で穏やかに暮らせる環境がいい。



野口 純さん・広美さん
海羽さん・咲妃さん・星奈さん

移住者 Data

【出身地】茨城県(夫)、さぬき市(妻)
【移住年】2016年
【職 業】会社員(夫)、市臨時職員(妻)
【家族構成】夫婦2人と娘3人

1か月の支出目安	
住宅ローン	55,000円
食費	60,000円
水道・光熱費	15,000円
通信費	15,000円
教育費	25,000円
1か月あたり	約 250,000円

現在の暮らしの満足度



フルタイムの妻にうれしい親のサポート!

家族が多いので、広い家を希望。将来は両親も一緒に住める十分な部屋数の中古住宅を購入しました。スーパーなどが並ぶ便利な立地ですが、「さぬき市だから手ごろで、理想のマイホームを手に入れることができました」。県外に3年以上居住という条件をクリアしており、移住者向けの家賃補助が適用されたことも大きかったそう。

広美さんは、両親のサポートを受けつつ、フルタイムで働いています。「娘たちの下校時間に合わせて、母が家にいてくれるので、寂しい思いをさせなくて済む」。洗濯物を取り込んでくれたり、ご飯を炊いておいてくれたり、習い事の送迎をし

